

白塔歌仙会第四三八回月例会「寒の底しられぬ花」の巻

寒の底しられぬ花のほの香り 恆雄
 柀挿せる隣家の路肩 七緒
 危ないよそっちへ行くと痛い目に 笈羅
 姉妹そろって二日のお灸 悦子
 朧月チョコの銀紙伸ばしつつ 果穂
 祇王忌に買う新版歳時記 和子
 ゲイカプル京の春寒手をつなぎ 松陽
 サッフオーまねび林檎咲く杜へ 恆
 宰相の引きで比例区政務官 七
 ガードガツチリ思わず水が 笈
 トレンドの白のビキニにサングラス 悦
 古き写真は麦藁帽子 果
 月淡く夏季合宿の帰り道 和
 習氏の頭上気球が回る 松
 眩暈のする散歩の耳に異な唸り 恆
 ハチドリの飛ぶ茶会の庭に 悦
 ハイハイと盃を重ねた花一杯 笈
 梓湖に集う桜鱒釣り 七
 残雪の常念の尾根朝日射す 松
 ゴールデン・ウイークはエジプトへ 和
 針供養カンボン通りのメゾンにも 果
 窓から落とす絹の靴下 恆
 稼ぎ口さがす詐欺師の合言葉 悦
 山と呼んだら川とお答え 笈
 武者人形源吾に紛う鉢の金 七
 女房お辰紗の気風よさ 果
 將軍さま軍事パレードに愛娘 和
 ルフィの帰国マルコスの先 松
 かぐや姫失せにしのちの居待月 悦
 衣桁に残る萩の打掛 七
 猪でプレイ中断ゴルフ場 笈
 一匹だよね秋戸の蠅 果
 地震(ない)ふるや黎明の空戦きて 恆
 氷河は溶けてマグマの怒り 和
 靖国の能舞台見よ花吹雪 松
 笑顔の父と雛飾りする 笈

連衆・恆雄、七緒、笈羅、悦子、果穂、和子、松陽。
令和五年二月一日首、令和五年二月十一日尾(文音)